

平成27年度東部地区小・中学校「ステップ・アップ研修」

1 目的

小・中学校「ステップ・アップ研修」は、初任者研修を踏まえるとともに、1年間の教員としての経験をもとに現職教員研修の一環として、実践的指導力と使命感及び幅広い知見等のより一層の向上を目的とする。

2 期日・会場

7月28日（火） 行田市商工センター

8月 7日（金） 行田市立長野中学校



3 対象者数（309人）

小学校教諭 197人

中学校教諭 112人

4 日程

<第1日目> 7月28日(火)

【午前】

・開講式

・講義1「教育公務員の服務規律の徹底と不祥事の防止」

・講義2「東部管内の生徒指導等について」

・講義3「生徒指導等に関する現状と課題」

【午後】

・DVD視聴「接遇について」

・受講者代表発表「教員生活2年目を迎えて」

・講義4「先輩から学ぶ」

・講義5「東部の教育を担う教員として」



<第2日目> 8月7日(金)

【午前】（小・中混合11班で実施）

・演習「接遇の在り方・クレーム対応」

【午後】（小学校5班、中学校3班で実施）

・協議1「学級経営上の課題と指導の工夫」

・協議2「学習指導における実践と今後の課題」

・閉講式



5 内容・受講者感想

講義1「教育公務員としての服務規律と不祥事の防止」

- 1 教員の服務
- 2 教員に求められる資質能力
- 3 教職員事故事例から学ぶ
 - (1) 体罰
 - (2) 交通事故等
 - (3) わいせつ行為等
 - (4) 個人情報の紛失・盗難等

【受講者感想】

- ・「初心忘るべからず」には「その時、その時の初心がある、それを忘れないことである」という意味があることを知り、もう一度しっかり自分を振り返らなければと思った。
- ・2年目を迎え、まだ、慣れない仕事もある中、「探究する力」、「自主的に学び続ける力」は、意識し続けていかないといけないと強く感じました。
- ・教員である以前に、人としてどうあるべきか、自覚をもち、日々過ごしていかなくてはならないのだと感じました。
- ・子供を変えるためには、まず自分が変わらなければならないと強く感じた。
- ・「信頼を築き上げるのは大変でも、崩すのは一瞬」という言葉が心に残った。
- ・最も印象に残った言葉は「総合的な人間力」という言葉です。今後も、学び続けて「総合的な人間力」を高めていきたいです。
- ・「教育公務員としての自覚をもちましょう」という言葉にはっとしました。子ども、保護者、地域の方々から信頼される教員になれるよう気を引き締め、職務に専念していきたい。
- ・服務について、もう一度考えることができました。服務とは何かを肝に銘じ、自覚をもって職務に励みたいと思いました。
- ・公務員には、職務専念義務、守秘義務など様々な義務がある。普段から気をつけてはいるが、いつ、どこで、誰が見ているか分からないので、休みの日や勤務後も、もっと気をつけなくてはと改めて思いました。
- ・昨年度とくらべると見通しが持てるようになったと思うが、そのゆとりがおごりになっていないか、もう一度考えなくてはいけないと思いました。
- ・退勤時、その日の勤務態度を少しでも振り返るようにしたい。
- ・体罰、情報漏えい、交通事故等は、日ごろからどれだけ意識して過ごせるかが大切だと思うので、今後も気を引き締めて行動したいと思いました。



講義2 「管内生徒指導等に関する現状と課題」

- 1 平成26年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸課題に関する調査結果
- 2 平成26年度非行・問題行動類別発生件数(東部管内)
- 3 生徒指導とは(生徒指導の進め方 生徒指導の3つの機能 生徒指導の推進)

講義3 「生徒指導等に関する現状と課題について」

- 1 はじめに (生徒指導とは・・・)
- 2 埼玉県の子童生徒の問題行動等の状況
(1)暴力行為 (2)不登校 (3)いじめ
- 3 携帯電話に係るトラブルについて
- 4 2学期はじめ、子供にどんな言葉をかけますか
- 5 おわりに



【受講者感想】

- ・生徒指導とは、問題行動への対処ではなく、「自己指導能力」を育てていくことであることを学びました。
- ・生徒指導の本質や目的を再確認することができました。今、接している子供が大人になった時の姿を見据えて指導にあたっていくことの重要性を感じました。
- ・生徒指導の3つの機能、「自己存在感を与える」「共感的人間関係の育成」「自己決定の場を与える」ということを意図的・計画的・継続的に取り入れることの大切さを改めて実感した。
- ・最近の傾向として、発達に課題がある児童・生徒の存在が目立っていることをうかがい、よりきめ細かな支援の必要性を実感しました。
- ・小6のインターネットトラブルについては、私も自分のクラスであてはまることがありました。懇談会で、保護者にも話をしましたが、やはり家庭との連携は不可欠だと思いました。
- ・もっとも心に残ったのが「子どもの変化を感じ取るセンサーを磨く」という言葉です。日々、何気なく接するのではなく、小さな変化も感じ取るセンサーをもって子供たちに接していきたいです。
- ・いじめは、「どの学校にも、どのクラスにも、どの子にも起こりうる。」ということ念頭に置き、自分自身の「いじめを察知する力」を高めていく必要性を感じた。
- ・「フォローするタイミング」については、日ごろの私の悩みでもあったので分かりやすくお話くださったのでスッキリとしました。「反省もしていないのに、フォローしてはいけない」、「反省したら早めにフォローする」など、今後の実践に生かしていこうと思います。



講義4「先輩から学ぶ」

- 1 はじめに
- 2 1年目・2年目に学んだ言葉から
- 3 あの頃（教師1年目・2年目）
- 4 若手教員の実態
- 5 若手教員からの刺激（OJT）
- 6 教科指導について
- 7 生徒指導について（長野中学校）
- 8 生徒指導で学んだこと
- 9 生徒指導から小中連携へのステップ
- 10 自分の学校のバトンは何ですか？
- 11 2年目の先生方へ

(1)エネルギー (2)未来からの「逆算」 (3)やることは同じ (4)だれもが一緒



【受講者感想】

- ・今後の教員人生を支えていくような素晴らしい言葉をたくさんいただきました。「学校」とは「学ぶことが交わって成長するところ」という言葉が印象に残りました。
- ・「大変な時、つらい時こそ教師力が向上する」という言葉を大切にしていきたいです。
- ・「教員は理論家ではなく実践家」であるべきという言葉にハッとしました。これからも様々なことを「実践」していきます。
- ・経験のないことはマイナスばかりではないという言葉に勇気づけられました。

代表発表「教員生活2年目を迎えて」

- 1 教師を志したきっかけ
(1)はじめに (2)小学校6年生時の担任との出会い
- 2 教員生活1年目を振り返って
苦労した1年間
- 3 辛かったこと・やめたいと思ったこと
(1)子供に裏切られて (2)職場の上司との関係
- 4 楽しかったこと・うれしかったこと
(1)子供たちとの関わりの中で
(2)先生方との関わりの中で
- 5 大切にすること 努力・笑顔・友達
- 6 教員生活2年目を迎えて
(1)これからの教員生活への抱負 (2)おわりに



【受講者感想】

- ・自分ももっと頑張らねばという思いになりました。とてもよい刺激を受けました。
- ・自分の経験と重なる部分が数多くありました。
- ・同じ気持ちでがんばっている仲間がいることに感謝と勇気を持つことができました。
- ・「努力・笑顔・友達」を大事にして教育活動にあたっている先生の姿が目につく内容でした。

講義6「東部の教育を担う教員として」

○ はじめに

1 教師となって

- (1) はじめの3年 (2) 熱意と努力と謙虚さ (3) 子どもの心を掴む
- (4) 卒啄同機 (5) 同罪の考え・同行二人 (6) 凡事徹底
- (7) 淵に臨んで、淵に落ちない教育

2 学習指導のプロを目指す

- (1) 本物に出会う (2) 学ぶ意欲を高める (3) こだわりを持つ
- (4) 教えるということ (5) 場数を踏む

3 人を育てる

- (1) 子どもとの出会い ～子どもは どの子も星～
- (2) 失敗から学ぶ
- (3) 人を育てるということ

○ おわりに



【受講者感想】

- ・「人を育てることができるのは人である」、この言葉がとても心に残りました。
- ・「いつまでも子供がついてくる教員になるには人間性を磨く」というお話が強く心に残りました。切磋琢磨して人間性を高めていきたいです。
- ・「当たり前のことを当たり前」に行うことの大切さと大変さを改めて感じることができました。「凡事徹底」、「卒啄同機」を意識して努力していきたいです。
- ・「謙虚さ」はとても大切な姿勢であり、忘れてはいけない姿勢であると思います。2年目ということで、少し失われていたかもしれません。気持ちを入れ替えて、自分を見つめ直すよい機会となりました。
- ・「信頼はどこから生まれますか？」の問いかけに、すぐに答えが浮かびませんでした。
- ・ラーニングピラミッドのお話の「教えることが最も効果大きい」ということはまさにその通りだと思いました。
- ・「教員の熱意は子供に伝わる」ということを聴いて、その通りだと思いました。日々の忙しさにかまけることなく、子供たち1人1人に目を向けて熱意をもって取り組んでいきます。
- ・未来を生きる子供たちに必要な力は何か、私が分からなければ子供たちに育成することはできません。しっかりと考えていきたいと思います。
- ・自分の授業について「こだわり」を持つ、極める分野を持つことを考えなければいけないと強く思いました。強みをもてば、それが自信となって子供たちの指導にも生きてくると思います。
- ・自分には、まだまだやらなければいけないことがあるなと思いました。印象に残ったのは「1授業一工夫」と「失敗してもよい」という言葉です。少しでも成長できるよう失敗を恐れずにチャレンジしていきます。



演習「接遇の在り方・クレーム対応」

【受講者感想】

- ・接遇とは「処遇(相手の立場)に接すること、相手の立場に立った心のもった対応」だと分かり、最も重要なのは誠意であることが分かりました。演習をとおして学ぶことができたので、とても勉強になりました。今日の資料を、もう一度読み直したいと思います。
- ・「たとえ言葉がきごちなくても、また変な敬語になっても誠意を持って対応することが大切」というお言葉が印象に残りました。間違いを恐れず誠意をもって対応していこうと思います。
- ・接遇は、自分自身の人間性を高めるためにも必要だと感じました。
- ・接遇とは、相手のことを考え、相手をもてなすことだと思っておりましたが、それだけでなく、自分自身を守ることにもつながるということ学びました。
- ・クレームをピンチではなく、新たな信頼関係を築くチャンスと考えること。この視点をもって今後対応していきたい。
- ・100マイナス1イコール0という言葉が強く心に残っています。対応した職員が学校の看板を背負っているという自覚が必要だと思いました。
- ・クレーム対応では、実際に起こる内容でロールプレイングを行い、どう対応すればよいかなどを学ぶことができ、実践に役立てたい。



協議1「学級経営上の課題と指導の工夫」

協議2「学習指導における実践と今後の課題」

【受講者感想】

- ・同期の仲間と協議できたので刺激を受けた。自分の意見が認められるとうれしかった。
この気持ちは子供も同じだと思いました。
- ・「教師は五者(学者・芸者・易者・医者・役者)たれ」という言葉が印象に残りました。
- ・具体的な事例を持ち寄っての協議だったので、大変参考になりました。2学期から、実践しようと思うアイデアをたくさん持ち帰ることができます。
- ・今日は、いつもは黒板を背にしている私が、黒板に向かってイスに座って研修を受けました。子供の立場になって学ぶことができました。
- ・異なる教科や学年の先生方との協議でしたが基本となる原理・原則は同じだなと実感しました。
- ・自分が悩んでいることと同じ悩みを持っている同期の仲間もいることを知って、「悩んでいるのは自分だけではない」と心が少し軽くなりました。
- ・他の先生から学ぶのは「マネ」をすることではなく、自分のオリジナリティを出すために学ぶということを教えていただきました。少しずつ自分なりのカラーを出していきたいです。

